

あじえんだ

2025.10
第55号

- 桂川・相模川事業報告
- 流域の課題（PFAS）
- プラごみ清掃活動
- 桂川・相模川の鳥シリーズ
- 山と海を結ぶ道 - 江戸時代の相模川水運



私は水ガキになった

実施日：2025年7月26日（土）

場 所：神奈川県相模川昭和橋下流

参加者：32名

報告者●岡田 一慶／相模川さがみ地域協議会

7月26日、相模川昭和橋下流で恒例の水ガキ養成講座を開催した。

水ガキは川や水辺で遊び親しむ子供の表し、今や絶滅危惧種になっている。保全の対象だ。川で楽しく遊ぶことから、川の危険性や自然の豊かさを実感し学ぶことができると思う。カヌーの試乗体験と岸辺の草陰を手網でガサガサして生き物を見つける内容だ。

会場はワンドになっていて、流れは穏やかで水深は1m～1.5mである。このような場所は相模川でも限られている。

参加者が揃った10時から安全確認の説明を行う。川で楽しく遊ぶためにはライフジャケットの着用は必須だ。スタッフは安全確保のため川に立ち込んで参加者を見守るが、スタッフだけでなく大人の参加者全員で子供から目を離さないことが重要だ。



安全確認の説明が終わって、全員がライフジャケットを着用して川の中に入る。力を抜いてライフジャケットに身を委ねる。ライフジャケットで浮く感覚は初めは違和感がある。少し体とライフジャケットがズレる気がする。怖がっていた子供達も声が大きくなり歓声を上げている。

カヌーの説明はパドルの握り方、前に漕ぐ方法、後ろに漕ぐ方法、曲がり方などごく基本なことを述べる。子どもたちは実際に漕いでその方法だけ



でなく、自由に動き回れることを実感する。

川風がそよぐと川面にふき、子供達が笑顔になっている。

生き物調べは手網の使い方にコツがある。手網を草陰の下流側に置き、上流側から足でガサガサを魚を網に追い込んでいく。採れた生き物は水槽に入れ観察会を開く。よく見えるように観察ケースに入れて観る。今回観察できた生き物はナマズ、アユ、ウグイ、ウシガエルのオタマジャクシ、アメリカザリガニ、キンフナ、ヌマエビの仲間、イトトンボのヤゴ、メダカだ。

ナマズは5cmほどの幼魚だったが立派なヒゲがあり可愛い顔をしている。相模川では5月の田んぼに水が入る頃、田んぼから排水された水路にたくさんのナマズが産卵のため遡上する。大きさは50cm～60cmになる。子どもたちは観るだけではなく触りたくなる気持ちを抑えられない。アメリカザリガニの甲羅をそっと持ち上げ自慢げである。ウシガエルのオタマジャクシはプヨプヨ、ヌルヌルしていて人気である。

お弁当を早くに食べた子供が遊ぼうと催促をしってくる。午後になると南風が吹きカヌーが吹き寄せられている。ゴムカヤックに3人乗り、「イチ、ニイ、イチ、ニイ」と掛け声を合わせてパドルを漕いでいる。

スタッフ、参加者で後片付けをして3時30分に終了した。



皮むき間伐森林体験

実施日：2025年8月3日（日）

場 所：山梨県都留市戸沢地域山林

参加者：48名

執筆者●前田 敏幸／きらめ樹やまなし

直径20cm余り。500年後には直径3mの大木に。

一人ひとりが森と関わることで、光の入った森の中。

赤茶けた暗い森だった場所が、たくさんの水をゆっくり貯え続け、多くの菌類、昆虫、鳥に小動物が元気に活動する広葉樹が木漏れ日の中揺れ、爽やかで日の当たる林が広がっている。



一人ひとりの力は微力だが、決して無力ではない。

みんなで、考えながら3区画20本余りの傾斜地の木々を仰ぎながら、どの木を残そうかと計測し、木の健康を見極めながら、竹べらを差し込みコンコン棒を打ち込みながら一枚一枚木の皮をぐるっと剥き切る。現れる木肌のみずみずしい生きている木を実感しながら。そして、いざ、みんなの息を合わせて、「レッツきらめ樹い〜!!!」

慌てない、周りの木の皮の剥け上りを見極め、時々小枝の節に当たるも、工夫しながら剥き進める。

ここまで剥けあがるものかぁ〜と。落ちてきた皮の長さ、約9m余りの物も。この皮も、残る木の根元で朽ちて、養分となって更に皮を剥かれた木の葉が枯れ、小枝が落下しながら、光が入り込み、風が抜けやすくなっていく。土の中の無数の今まで息を潜めていた種が、光を得て芽吹いてくる。1年後の森の変化を見に、またおいでよ！

森の中で、少々長かった写真説明パネルでの学

習会。聞く方も大変でしたが、伝えるスタッフも本気でした。私たちの暮らしの仕方の見直し、世界の人々の暮らしに、家族の平和の心穏やかな生活に繋がるのだと。

お米、お塩、お酒を3人の代表者が、デモンストレーションの木の周りにぐるりと周りながら、木の命を頂くこと、命を断った木々も大切に丸ごと活用させていただくこと、そして今日一日の森での活動の安全を祈りました。

チェーンソーで皮を剥き1年経った木を1本倒しました。ロープを掛け、子どもたちだけで曳き倒そうと試みました。せーの、せーのと。容易に倒すことが出来ず、大人も加わり、子どもたちがもみくちゃにされちゃった〜と言われるくらいに必死に。見事に倒し終えた木の根元に集まり、年輪を数える子、スライスしたチップの香りに酔いしれる子。

終わりの感想シェア。語らずにいれない子たちの多かったこと。とってもスタッフ冥利につきました。今年の内にもう一度きらめ樹やりたいとの申し出もあった。

3歳の子も混じり、スタッフ7名。都留市の戸沢の林。流域協議会のスタッフや関係者を合わせると約60名。大勢の声がこだました森の中。日が傾いた頃の森の中。ひぐらし蝉のカナカナカナ〜の鳴き声とともに心地良い汗が引きました。無事に終えたことに、森の神様にも感謝でした。



プラごみ清掃活動について

報告者●豊田 直之／相模川よこはま地域協議会

桂川・相模川流域協議会の中の地域協議会として当会の拠点である横浜エリアは、水道水として相模川の恩恵を受けているものの、相模川自体がかなり遠く離れたところを流れており、なかなか流域エリアでの活動は難しいものがあるというジレンマが残ります。だったら他の協議会と同じようなことをせず、遠回りのであっても最終的に相模川の保全再生につながればいい。そこで、横浜で神奈川県内の海岸線全てを活動エリアとしている NPO 法人海の森・山の森事務局と当会活動再開当時から協働で、海岸のごみ清掃活動をすることにしました。川と海とは繋がっているという広い解釈から、相模川から海に流出したプラスチック

クごみを海岸全域から回収することを活動とし、当会として貢献しようというものです。



活動初期／三人だけで細々と活動していました。(2020年5月 真鶴・三石)

プラごみバスターズ事業が神奈川県「みんなのSDGs 賞」受賞

2020年の年明けから新型コロナウイルスが急速に蔓延し始め、その春には多くの人たちを集めてのごみ拾い等の屋外での活動がきわめてやりにくくなりました。当時、無理に今まで通りの活動が続けようとするバッシングを受けたり、非国民として見られるような変な風潮もあり、当会も活動停止、もしくは休止を考えていました。しかし前述の協働 NPO からは、細々でもいいから自分たちにできることを続けていこうという提案があり、当会も全く異論なく従うことにしました。その細々と続けていこうというプロジェクトが

「プラごみバスターズ事業」だったのです。

この事業は、県の最西端である湯河原を出発し、毎月1回、一筆書きのようにつないで神奈川県内の海岸線をすべて歩いてごみ拾いをするという計画。いつまでかかるかはやってみなければわからないが、粛々とやっていこうと。



大磯から平塚／徐々に活動に参加してくれる方たちも増えてきました。(2021年2月 平塚海岸)



表彰式／本事業が神奈川県より「みんなのSDGs 賞」として表彰されました。(2025年2月)

ただ歩いてごみ拾いをするだけではなく、毎回ごみを分別して回収し、ごみの種類ごとに計量してごみを完全に見える化する。写真や動画の撮影はもちろんのこと、飛ばせるエリアではドローンも

飛ばして県内の海岸線の記録を残すというプロジェクトでした。

結果的には、4年と9ヶ月かかりましたが、2024年12月、ゴールと設定していた川崎市の多摩川河口に到達。60回にも及ぶごみ拾いは、累計踏破距離411キロ、累計回収ごみ総重量3トンと52キロ。

この活動が高く評価され、本事業が2025年2月に神奈川県より「みんなのSDGs賞」として表彰を受けました。



多摩川河口にゴール／最終ゴールである多摩川河口に無事に到着しました。(2024年12月 川崎市)

このプロジェクト完遂で見えてきたさらにこの先の課題

単に神奈川県海岸線をすべて歩いてごみ拾ったことにとどまらず、このプロジェクトの本質は、県内の海岸線のごみの現状を全て見てきたこと、そして全てのエリアでのごみのデータをこまごまと集めてきたこと。これらを分析・検証すると、さまざまな問題点が見えてきました。

1. 県内海岸線沿いの15の市・町でのそれぞれの分別基準がバラバラ

各自治体の焼却炉の規模の違いによる問題。とはいえ、分別基準がバラバラなまま、プラスチックごみ問題の解決はあり得ない。単に沿岸の市町だけではなく、神奈川県全体でごみの分別基準が統一されたものになるように、またその「神奈川モデル」をもとに、他の都道府県にも同じような働きかけを行なって欲しい。時間をかけてでも県を含む関連自治体に提案し続けます。

2. 県内の総ごみ量の63%が三浦市と横須賀市の海岸から

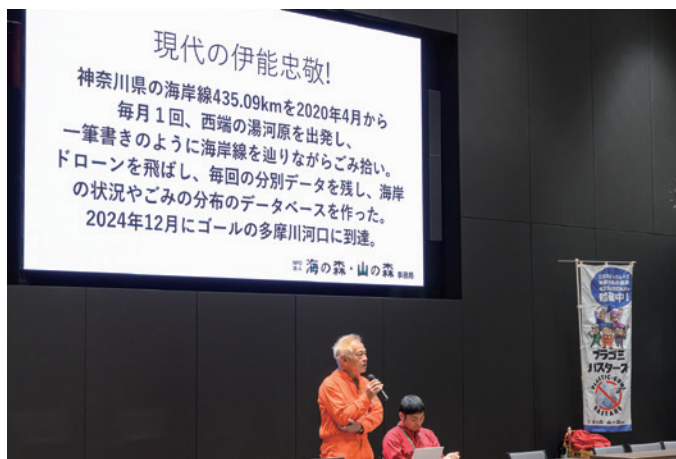
両市の海岸にごみが多いのは神奈川県的地形的な問題。海に三浦半島という半島が大きく突き出しており、その両脇の東京湾、相模湾を浮遊するプラスチックごみが打ち上がることが原因。また、両市とも海岸線の距離が他市町の数倍以上長いのも原因のひとつ。さらには半島先端エリアなどアクセスの悪いところが多く、その理由からボランティアも入っていなかった手付かずのエリアが多かったことも理由。今後はこれらのエリアに私たちも含めた多くの参加者を募り、ごみの多かったエリアのごみを一掃することを計画しています。

3. 横須賀市から川崎市までの港湾エリアの大量の不法投棄ごみ

港湾エリアでのトラックドライバーたちからの不法投棄と思われるごみが大量に放置されている

状態。これらのごみが雨や強風で海洋に流されたり吹き飛ばされたりして流出。この大元をたない限り、いくらビーチクリーンに力を注いでも「いたちごっこ」にすぎません。この問題解決に向けて、まずは地元の横浜の港湾エリアから始めることにしました。前述のNPOと一緒に東京都・大井埠頭との比較調査をしました。大井埠頭は同じような立地にもかかわらず不法投棄ごみがほとんどない。横浜の港湾エリアでの問題の原因はドライバーたちのモラルもあるにはあるものの、トイレやごみ回収などの付帯設備がなく、ドライバーたちの労働環境の悪さがこの事態を招いているものと仮説を立てました。そこで横浜市資源循環局、港湾局、道路局と組んで、まずは港湾エリアの不法投棄ごみを一掃し、仮説を確かめるべく実証実験を開始していきます。

当協議会は、このように直接的ではないものの、神奈川県相模川を含む河川からのプラスチックごみの海洋への流出問題にこのように取り組んでいます。



活動報告会／ゴールのある川崎市役所で本事業活動報告会を開催しました。(2025年1月)

臨床医の視点から PFAS 問題を考える

執筆者●牛山 元美／さがみ生協眼科内科 内科部長

PFAS（ピーファス）は有機フッ素化合物の総称です。元々自然界にはなく、人為的に作られた化合物ですが、今は1万種以上存在しています。

耐熱性・耐薬品性・撥水性に優れ、80年前に原爆投下を実現させ、その後は日常生活のあらゆる場面に広がりました。フライパンや炊飯器のコーティング材、防水加工の衣類、食品包装紙、泡消火剤、半導体製造、医療用カテーテルなど、便利で快適な現代の生活を支えてきた物質です。

しかし、その裏でPFASは極めて分解されにくく、環境中で長期間残留することが分かってきました。川や地下水を經由して広範囲に拡散し、生

き物や人間の体内にも蓄積されるため、「永遠の化学物質」と呼ばれます。

日本でも米軍基地や自衛隊基地、工場周辺などで高濃度汚染が報告され、神奈川県内の河川や魚、地下水から国際基準を超える値が相次いで検出されています。

2023年、岡山県吉備中央町で水道水が高濃度に汚染されていることがわかり、水源の上流に、PFASを吸着した活性炭が放置されていたことが判明。水道水を飲用していた住民の血液中PFAS濃度が異常な高値を示し、現在健康影響を調査中です。

健康への影響 — 見えにくいリスク

感染症のように原因が特定でき、検査で診断できる病気とは異なり、環境汚染による健康被害は、診察室だけでは見えにくいものです。

PFASの中に高い有害性を持つモノがあることが初めて注目されたのは、米国の製造工場でした。従業員が体調を崩し、さらに排水が周辺環境を汚染し、牛の大量死を招いたことが大規模訴訟へと発展。

これが汚染の実態解明と厳しい規制の契機となりました。

現在、疫学研究からPFAS曝露と関連が指摘されている健康影響には、コレステロール値上昇、肝疾患、甲状腺疾患、妊娠・出産への影響（低出生体重、発育遅延など）、免疫力低下（子どものワクチン反応減少）、腎臓がん、精巣がんなどがあります。

イタリアの汚染地域では、コレステロール値上昇と関連する虚血性心疾患（心筋梗塞など）による死亡率が非汚染地域に比べ明らかに高く、その結果、汚染原因の企業が有罪判決を受けました。



PFASに特有の病気があるわけではなく、加齢や生活習慣が原因とされてきた病気の一部が、実は汚染によって増えている可能性があるわけです。

さらに、PFASは血中半減期が数年と非常に長く、一度体内に入ると容易には排出されません。つまり、過去の曝露が何年も先まで影響し続ける恐れがあるのです。

川と PFAS 汚染

PFASは水に溶けやすく、地下水や河川を通じて広範囲に拡散します。特に地下水汚染は目に見えないため発見が遅れ、飲用や農業用水を通じて長期的な曝露^{ばくろ}が続く危険があります。

川の生態系も被害を受けます。魚や水生昆虫に PFAS が蓄積し、食物連鎖を通じて陸上の生物や人間に戻ってくるのです。

国際基準と日本の遅れ

米国環境保護庁（EPA）は 2023 年、PFOA・PFOS（PFAS の代表的 2 種）の飲料水基準を 1 リットルあたり 4 ナノグラムという極めて低い値に設定しました。一方、日本の暫定目標値はその 10 倍以上の 50 ナノグラム。世界では「可能な限り低減すべき物質」との認識が定着しているのに、日本の対応は遅れています。医療の立場からも、曝露削減のための規制強化、除去技術の普及、汚染源の特定と封じ込めは急務です。

地域でできること

PFAS 問題は地域の健康と自然環境に直結します。例えば次のような行動が有効です。

1. 情報収集と共有：公的機関や大学の水質調査結果から、地域の汚染状況を把握。
2. 市民による測定・監視：河川水や井戸水の PFAS 濃度を定期的に測定し、変化を記録。
3. 行政への働きかけ：基準見直し、汚染源調査、浄化対策を要望。医療関係者や複数団体との連携で説得力が増す。
4. 曝露を減らす生活習慣：不要な撥水加工製品を買わない、テフロン加工の古いフライパンを使い続けない、PFAS 不使用の商品を選ぶ。井戸水利用時は浄水器の設置も検討。
5. 血液検査で現状把握：血中濃度測定で、健康影響の予測や対策の優先度を判断できる。

臨床医としての責任

私は 2011 年 3 月の福島第一原発事故後、原発から 250km 離れた相模原市内の小学校校庭で高濃度の放射性物質が検出されたことがきっかけとなり、放射能被ばくによる健康影響について学ぶようになりました。放射能と同様に PFAS 汚染は目に見えず、すぐ症状が出るわけではありませんが、確実に長期

的な健康リスクとして積み重なります。医療と環境は切り離せません。安全な水と空気、安心して食べられる食べ物があってこそ健康は守られます。環境を守ることは、未来の子どもたちの健康を守ることでもあり、その責任は私たちにあります。

PFAS問題は、便利さを追求してきた私たち市民と、企業、行政、そしてPFASの健康影響を理解する医療者が協力して取り組むべき現代社会の構造的な公害です。臨床医として、この問題を社会に伝え、解決に向けて尽力すべき責任を感じています。

さがみ生協眼科内科での血中PFAS検査（2025年8月時点）

有機フッ素化合物PFAS分析報告書

お問い合わせ番号 _____

施設名 さがみ生協眼科・内科

担当医

検定日 さがみ生協眼科・内科

氏名 ID: 生年月日 年齢 67歳 性別 女性

採取日時 受診日時 2024年07月08日 分析日 2024年07月19日

材料 血清

検査項目	分析値 (単位 ng/mL)
PFOS [ペルフルオロオクタンスルホン酸]	5.7
PFOA [ペルフルオロオクタン酸]	5.7
PFHxS [ペルフルオロヘキサンスルホン酸]	2.0
PFNA [ペルフルオロノナン酸]	3.7
PFDA [ペルフルオロデカ酸]	1.0
PFUHA [ペルフルオロヘptaフルン酸]	0.1未満
NMFOSSA [N-(メチルフルオロオクタンスルホンアミド)酸]	0.1未満
検査項目	合計値
Total 4 PFAS (PFOS + PFOA + PFHS + PFNA)	15.1
Total 7 PFAS (PFOS + PFOA + PFHS + PFNA + PFDA + PFUHA + NMFOSSA)	17.8

(血中濃度の基準)

- アメリカ、全米研究工学部アカデミー
報告の健康影響評価は、
2 ng/mL未満、健康影響はない。
2 ng/mL以上～20 ng/mL未満：潜在的な健康リスク(「疑念」)では影響の可能性。
20 ng/mL以上：報告した健康影響を、科学的根拠に基づいて確認。腎臓や肝臓中の蓄積、
腫瘍形成や生殖機能低下などの影響が懸念される。
- *ドイツ、ヒトバイオモニタリング委員会が提示する指針に「FAS」(FOSを含む、健康影響がある)
と定められる(ng/L)。
PFOS : 2.0 ng/mL PFOA : 1.0 ng/mL

分析機関 一般財団法人日本環境化学センター 分析者 佐藤 孝一 (小規模大正大学客員教授)
病棟生協研究所 環境医学研究センター

費用 (自費)

検査代: 11000円 + 消費税 = 12100円

採血手技、診療料: 1000~2000円

保険診療で受診される理由がある場合や、肝機能、腎機能などの保険診療での血液検査があるときは、PFASの検査料のみを自費でいただきます。

結果は2週間後～2か月後

受診して結果説明を聞かれるときは、保険診療の診療料(数百円?)必要。

郵送で、報告書のみをお送りすることもできます。

お問い合わせ先:

さがみ生協眼科内科 TEL : 042-743-3261

相模原市南区相模大野6-2-11

Eメール: sgmmch-u

できるだけメール
でお願いします

@hokuou-iryuu.or.jp

歴史を生きる岩殿山 634m

執筆者●中村 光義

岩殿山は山梨百名山の下から数えて二番目の標高の小さな山である。頂上直下には鏡岩の大岩壁、大絶壁。登山口の大月駅前から山の全容が眼前にすっきり身近に眺められる。



大月市街から岩殿山南面を見る

駅前から山頂目指して登山開始。高月橋で桂川を渡ると、すぐに岩殿城跡入り口。ここから桜の美しい公園を経て40分ほどで頂上だが、岩の崩落があってこのコースは現在通行止め。県道をそのまま歩き、山裾を大きく左に回り込んで畑倉登山口へ。駅から40分程の歩道歩きだが、他に時間帯によっては路線バスの便もある。

登山口から少し登ったところにあるのが鬼の岩屋。この手前の斜面には春にはカタクリが咲く。ここからは急坂で冬場の霜解け時は滑りやすく要注意。1時間もかからずアンテナが立つ頂上部に出る。城の遺構を辿り西に向かう。鏡岩の上部だけあって遮る物のない眺望が得られる。ここからの富士は「十二単の富士」。都留の谷の兩岸の山々が左右から重なり襟を形成しその上に美しい富士が顔を覗かせるという趣向である。

下山は「稚児落とし」を経て浅利集落へのコースをとる。兜岩の切り立った岩壁のトラバースが通行止めになっている現在、短い鎖場が数か所あるだけだが油断は禁物。慎重に歩く。連れは高所恐怖症といい、稚児落としの手前では林間コースをとった。

馬蹄型の大絶壁がなすこの地は、古くは「呼ばわり谷」と呼ばれた。岩殿城落城の際、逃げ落ちる城主小山田氏の夫人一行が泣き声を追手に聞き付かれるのを恐れ、この目もくらむような断崖から稚児を投げ落としたとの言い伝えである。



稚児落としの大絶壁

むごく、悲しい話である。この絶壁の上では軽率な行動は厳禁。落ちたらまず助からない。

そして、気を付けなければいけないのが急で滑りやすい浅利への下山路である。足元に注意して30分かけて下る。降り立った分岐点では左の近道を通り県道に出た。幸いにも路線バスがやってきて疲労気味の連れは助けられた。元気回復の友と駅前でビール。久々の楽しい4時間ほどのハイクの一日の締めとなった。

岩殿城落城から約400年後の1984年の8月から大月市では「かがり火祭り」が盛大に執り行われる。城主小山田信茂の遺徳に報じることが起源の祭りだが長い空白の年月がある。そこには名門武田氏滅亡の最後のとどめを刺した裏切り者としての認識が関係していると思われる。しかし、郡内不侵の約を織田・徳川方と結び、郡内の領民の命と領土の焦土化を防ぎ、自らと家族はことごとく斬首された。立派な領主のふるまいである。

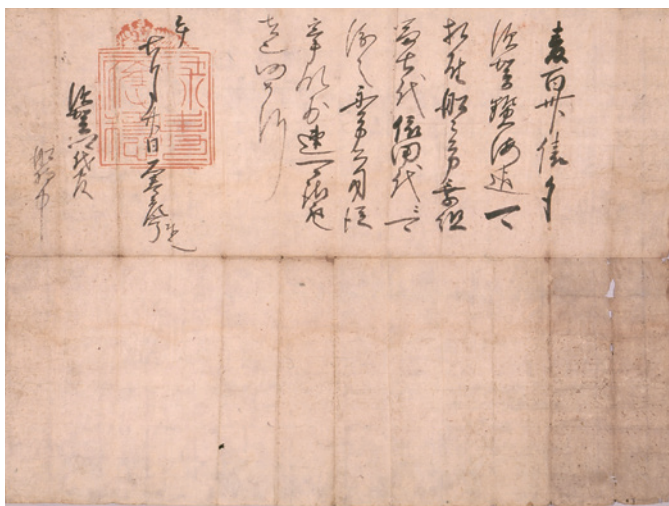
武田氏の直轄地であった国中（甲府盆地）と国衆としての小山田氏の領地（郡内）では小山田信茂の評価は真反対となる。不名誉を甘んじて受け入れ領民・領土を守ることを選択し自らは散っていった信茂の心を想う。かがり火まつりを発起した人々は自らのアイデンティティとしてその心の伝承を願ったのではないか。川の合流点に屹立する岩殿山は大月市民の心意気の山である。

戦国時代の相模川水運

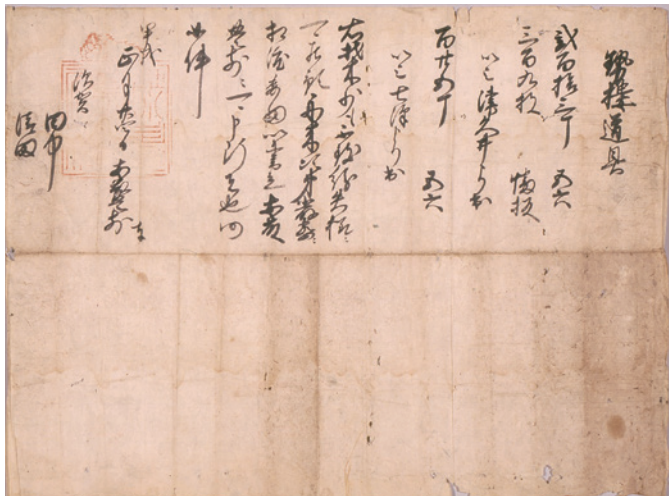
トラックや鉄道がなかった江戸時代、物資を船で大量輸送できる河川は重要な流通路でした。甲州郡内地方・丹沢山地・相模平野といった広大な流域を背後に控えた相模川の水運は、流域の林産資源や農産物を流域外へ送り出し、流域外からの生活物資や生産資材などを流域内へ運ぶ、流域の生命線とも呼べる存在でした。

江戸時代の相模川には商品を積んだ高瀬船や

木材を組んだ筏が行き交い、沿岸の要所には高瀬船が荷物を積み降ろすための河岸場が設置され、賑わいを見せていました。相模川には現代では失われた水運の光景が見られたのです。相模川水運による物資の移動は縄文土器の分布状況などにより、原始からあったと考えられますが、文献上、具体的に相模川の水運が確認できるのは戦国時代からです。



元龜元年（1570）北条氏印判状（平塚市博物館寄託）



天正2年（1574）北条氏印判状（平塚市博物館寄託）

戦国大名北条氏が、相模川河口に位置する須賀村（平塚市）の有力者である清田・田中両氏へ宛てた印判状からは、当時の相模川水運の様子がうかがえます。

元龜元年（二五七〇）七月二〇日の印判状では、麦一三〇俵を須賀から熱海（静岡県熱海市）まで船で輸送するように命じています。ここからは相模平野で収穫された農産物が相模川水運で須賀村へ運ばれ、集積されていたことがうかがえます。

また、天正二年（一五七四）正月二四日の印判状では、津久井（相模原市緑区）・七沢（厚木市）から伐り出された材木を保管し、船が到着次第、その船に渡すよう命じています。これらの材木はやぐらの用材にされたと考えられます。ここからは津久井や七沢などから産出された山林資源も、相模川を通して須賀に集積されたことがうかがえます。

以上から断片的ながら、戦国時代に相模川が物流の経路として利用されていたこと、須賀村は相模川流域の物資の集散地として物流上重要な役割を担っていたことがわかります。須賀村は地域の有力者である清田・田中両氏を小代官とすることで北条氏に把握されていました。

さらに、江戸時代になると、巨大都市江戸が建設され、相模川の物流はさらに大きなものになっていきます。

次号から江戸時代の相模川の水運の歴史を紐解いていきます。

河川敷や丘陵に見られる植物

執筆者●長岡 恂／厚木植物会

フジ (*Wisteria floribunda* (Willd.) DC.) 別名ノダフジ



観光客が大勢訪れる名物公園のフジは藤棚にのって見事に咲きほこるが、里山育ちの野生フジは勝手気ままに他の樹によじ登り樹冠を覆ってしまう。5月ごろ花が咲くと薄紫の霞がかかったようで遠くからでも満喫できる。

落葉つる性木本でつるは左巻（前から見て右から左へ巻きながら登る）で樹木に巻きつく。日本原産。花にはクマバチがよくやってくる。このハチどう猛にみえるが性格はいたっておとなしい。

花の蜜を吸っているだけ。フジにとっては受粉してくれる大切な存在。

花後、豆はやや扁平でビロード状の短毛を密生し長さ 20cm ぐらい。熟すとはじけて直径 12mm ほどの円盤状の豆をはじき飛ばす。表面に不規則な濃褐色の模様がある。林縁や明るい林内に生え、ほぼ全国に広く分布する。

ヤマフジは、前種と同様の環境に生える。つるは右巻（前から見て左から右へ巻きながら登る）で、近畿地方以西と、四国、九州に分布する。小葉は前種よりやや幅広く、両面特に下面に淡褐色毛が密生する。

ナツフジは茎が左巻きで、姿はフジに似るが花序は細く長い。花は緑白色で夏に開花。東海地方以西と、四国、九州に分布する。関東近辺の公園や寺社などで見られるが植栽されたものと思われる。



エゴノキ (*Styrax japonica* Siebold & Zucc.)

白くて小さな可愛らしい花を下げるように咲かせる姿が美しく、庭のシンボルツリーとしても人気がある。万葉集にも詠まれている植物で、将棋の駒を作る木材としても利用されている。実や皮、花には有毒エゴサポニンが含まれているので、食用にはできない。実を水につけると石鹼のように泡立つので石鹼が不足していた時代、石鹼代わりに利用されたこともあった。果実は魚毒に用いられる。実をつぶして小川に流し、小魚を浮き上がらせて遊んだ悪ガキ時代を思い出す人も多いと思う。



時折、虫こぶの付いた枝を見掛けるが、猫の足形を連想させるようなおもしろい形をしたエゴノネコアシアブラムシが寄生した虫こぶが目につく。新梢の成長期に形成され冬になっても枯れた猫足がぶら下がっている。（厚



木・愛甲の自然誌 山口勇一 2018)

落葉小高木で枝は表皮が剥離して赤褐色、樹幹は黒褐色、枝や葉の上面には立ち上がった星状毛があり光沢はない。花期は5月中旬。下向きで鈴形の白花を咲かせ、甘い香りがある。花で枝がいっぱいになり壮観。丘陵から山地に普通に分布。昔から人々の生活の場に密着し、利用されてきた樹木だが今の世の中では忘れられてしまったようだ。

旅する鳥たち

執筆者●秋山 幸也／相模原市立博物館学芸員

ツツドリ (カッコウ科)

秋の河原では、一時滞在している渡り鳥に出会うことがあります。山地や北方で繁殖し、南方へ渡る途中、休息と栄養補給のために立ち寄っているのです。つまり、相模川における渡り区分では「旅鳥」と呼ばれる鳥たちです。

例えば、カッコウの仲間のツツドリ。初夏の山の森から「ボーボー、ボーボー」と竹筒を吹き鳴らしたような声を響かせて囀^{さえず}ります。ツツドリは大きめのイモムシを好んで食べ、しかも、かなりの大食漢です。そんなツツドリのねらい目は、夏の終わりから秋にかけて、サクラなどで大量に発生するモンクロシャチホコの幼虫です。

南方への長旅を前に、たくさんのイモムシを食べようと桜並木を訪れます。

相模川の河原には、キャンプ場周辺などを中心に桜並木があります。こうした場所でじっくり探すと、ツツドリを見つけられるかもしれません。



滞在期間は9月下旬から10月中旬くらいで、サクラだけでなく、オニグルミやエノキなど、虫がつきやすい他の木でも見られます。ただし、この時期はほとんど鳴き声を発しません。静かに枝を渡り歩いているので、見つけ出すのはかなりの難易度です。じっくり探してみてください。

エゾビタキ (ヒタキ科)



鳴き声や姿が美しく人気のあるヒタキの仲間にあって、一見、地味な色合いなのがエゾビタキを含むサメビタキの仲間です。

しかし、地味だからと言って人気が無いわけで

はありません。大きく丸い目と、垂直に近い角度で枝に姿勢よくとまる姿の虜になるバードウォッチャーは少なくありません。そんなサメビタキの仲間は、秋になると低地の河原や公園に滞在し、渡りに備えます。

中でもエゾビタキは相模川でよく見られます。前述のツツドリよりも体はずっと小さいのに見つけやすいのは、枝から飛び上がって飛んでいる昆虫を捕まえる「フライングキャッチ」という方法で採食するからです。梢付近からパッと飛んで、また元の枝へ戻る行動を繰り返します。実はこの採食方法は、ヒタキ類を表す英名の flycatcher の由来となっています。

関東地方では同じ仲間のコサメビタキとサメビタキも見られます。エゾビタキと同じように、秋には低地の樹林へやってきます。姿がとてもよく似ている上に、特に秋はその年生まれの若鳥も多いため、特徴が明瞭でない個体もいます。バードウォッチング上級クラスの腕試しとして、識別にチャレンジしてみてください。

第31回 桂川・相模川 流域シンポジウム開催



いのちの水 大丈夫?
～公害の歴史から考えるPFAS問題～を会場及びオンラインによるハイブリッド開催しました。次号にて記事を掲載予定です。

講演テーマ：PFAS 問題 この1年ほどの動向とこれから

講師：原田浩二氏（京都府立大学教授）

日時：2025年9月27日（土）13時～16時

会場：杜のホールはしもと

琉球大学名誉教授

小島 櫻禮さんを偲ぶ

よしゆき

小島先生は会報誌あじえんだ113に「川の記憶を訪ねて」を2010年12月（25号）から2025年3月（54号）まで30回の連載をされていた。最新号も先生の「川の記憶を訪ねて」が掲載されるはずだった。訃報を知ったのは会報誌の編集委員である中門氏からだった。

相模川の生態系の保全や、治水対策、住民参加について河川管理者の説明が明確ではなかった際に、小島先生が静かな口調で明確に課題を指摘する姿勢は一貫していて、微塵もブレることはなかった。心強い存在だった。

相模川河川整備計画は2018年（平成30年）に策定されたが、多自然川づくりや、カワラノギクの保全が位置付けられた。ウナギの石倉カゴによる調査やカワラノギクの圃場整備が行われている。相模川を見るたびに小島先生を思い出す。安らかに眠りください。

（岡田 一慶）



入会のご案内

協議会では、クリーンキャンペーンや、上流域と下流域の方々が集う交流事業など、さまざまな活動を通じて桂川・相模川の水環境の保全・再生に努めています。活動に興味をお持ちの方、いっしょに活動して見たい方の入会をお待ちしています。入会に関する手続きや協議会に関するお問い合わせは事務局にご連絡ください。

あなたのその力が豊かな水環境を創ります。

原稿 大募集

本誌に掲載する原稿を募集しています。

採用された作品は、会報誌「あじえんだ 113」（当誌）に掲載します。

また、採用された方には粗品を贈呈いたします。みなさんからのご応募をお待ちしています。

募集要項

- ・テーマ「あなたの好きな流域の風景」
- ・A4・1ページ（800字程度と写真数枚）
- ※応募原稿は自作未発表のものに限ります

応募方法

お名前、ご住所、お電話番号を明記の上、事務局あて郵送又はメール（ft-rinmuk@pref.yamanashi.lg.jp）でお送りください。

表紙写真／撮影場所：海老名駅東口（海老名市提供）

本紙に対するご意見・ご感想を下記事務局までお寄せ下さい。

あじえんだ 113 No.55(2025.10 発行)

発行 桂川・相模川流域協議会 編集 あじえんだ 113 編集委員会

桂川・相模川流域協議会
ホームページアドレス
<https://katurasagami.net/>



事務局 山梨県森林環境部富士・東部林務環境事務所 〒402-0054 都留市田原2丁目13-43 TEL.0554-45-7810 FAX.0554-45-7807
神奈川県環境農政局緑政部水源環境保全課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL.045-210-4358 FAX.045-210-8855



■やまなし森の印刷紙
この印刷紙には、FSC®
森林管理認証を取得した
山梨県有林からの木材が
使用されています。



ユニバーサルデザイン
(UD) の考えに基づいた
見やすいデザインの
文字を採用しています。